そうがく

（No. 77）
R6. 7. 16 発行
現職研修委員会
総合的な学習部編集

自己を見つめ、未来を考える

総合的な学習部長　竜南中学校　竹平　真仁

六月上旬、横浜・東京へ修学旅行に出かけた。天候にも恵まれ、三年生の生徒たちは旅行を満喫し、仲間との絆を深めることができた。そして、同じ日程で二年生が職場体験学習を実施していた。学校を留守にしていたので、直接二年生の雰囲気を感じられなかったのが残念であったが、巡回した教師が撮影した膨大な写真に目を通してみた。そこには、実にいい表情で活動する生徒たちの姿があった。

真剣に掃除をする姿、精いっぱいの笑顔で接客をする姿、慎重に作業をする姿など、やはり学校ではできない学びの効果は大きいと感じる。この三日間のために教師たちは長い時間と労力をかけ、生徒たちのモチベーションを高めていった。本校ではコロナ禍の三年間、中止にしたり、規模を縮小して実施したりしてきた。昨年度からようやく以前のような形に戻すことができた。体験を終えた生徒たちが、「これからの学校生活につながることは何か」という問いに対して、「クラスだけではなく学年の人たちとの出会いを大切にしたい」、「一日一日をもっと大切に生きて自分の成長に気付けるようにしたい」、「ちゃんと頑張ればその分うれしいことが返ってくるから、どんなことでも全力で頑張りたい」などと答えている。日々の生活を見つめ直し、未来の自分を思い描こうとしている様子が伝わってくる。体験だけがキャリア教育ではないが、「経験に勝る知識なし」である。

キャリア教育という文言が初めて公文書で使用されたのは、一九九九年の中教審答申。当時は、フリーターや早期離職者の増加が問題視されていた。それから四半世紀が過ぎる中で、教育基本法や学校教育法の改正により、義務教育の目標の一つとして、小学校からの体系的なキャリア教育が求められるようになった。現在、学習指導要領では「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と示されている。本校でも、総合的な学習の時間を活用したキャリア教育を推進している。そして、教科・領域の学習を通して、これからの社会で予想されることを知り、自分がその中でどのように生き、自立していくのかを考えさせたい。地球環境の変化や少子高齢化・人口減少、生成ＡＩとの関わり方など、これから向き合わなければならない問題ははっきりしているのだから。

本年度の研究の方針

生活総合指導員　藤川小学校　酒井　智之

■研究主題■

『子どもの探究がつながる
総合的な学習の授業づくり』

■研究の重点■

・子供が切実感をもち、自分事となる課題設定。
・「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四つの過程を繰り返す探究的な学習。
・多様な学習集団や学習形態の工夫。
・地域の「人・もの・こと」の積極的活用。
・評価規準の設定や評価方法の工夫。

■子どもの探究がつながる単元構想を目指す■

本年度より、研究主題が変更されました。新しい研究主題について、愛知教育大学教授・加納誠司先生は、「総合的な学習の時間に学んだことを、これからの生き方に生かすこと」を強調されています。つまり、新たな生活を築いていく授業をどうデザインするかに主眼を置き、子供が思いや考えを巡らせて、自分にとっての最適解を見つけ出すことが重要です。そこで、私たちには、学びを子どもの生活や生き方に還元していくという、思考・判断・表現する総合的な学習を目指すことが求められています。

研究主題にある「つながる」とは、「子どもの探究が次の探究に連続していく姿」であると捉えています。そして、このつながりを生み出すために必要な教師支援が、前述した五点の「研究の重点」であると考えます。

探究がつながっていく授業を構想し、子どもが自己の生き方を問い続けることができる実践が展開されることを心から期待しています。

研究・研修報告

研修部

第一回の岡総研のご報告です。

第一部では、本研修会の会長である倉地耕治先生からご挨拶をいただきました。その中で、総合的な学習の時間は、非認知能力を培い、未来を切り拓く子どもの育成につながっていることを確認されました。また、総合的な学習の時間は、教師の色を出すことができる教科・領域であり、やりがいを感じられるものであると教えていただきました。

第二部の座談会では、小学校の中学年部会、高学年部会、中学校部会に分かれて実践の困り感を共有したり、アイデアを検討したりしました。単元構想や今後の授業の進め方などの悩みを伝え合い、活発な意見交換が行われました。

第三部の中京大学教授・久野弘幸先生のご講話では、先進校における「自由進度学習」の紹介をしていただきました。参加者が「自由進度学習」を体験する場を設定していただき、子供の思考がどのようにつながっていくのかを学ぶことができました。参加者からは、従来の学習と大きく違うことへの驚きの声が多く聞かれました。また、そこで生まれた疑問にも、久野先生が丁寧に対応してくださり、今後の学習の在り方を考え直すことができました。

この会の開催にあたり、情宣していただいた主任の先生方に感謝します。

次回は、九月二十日（金）を予定しています。お時間がございましたら、ぜひご参加ください。

学び舎の　総合耳寄り情報

二年生は「人生一〇〇年時代の働き方学習」というテーマで学習を進め、未来の働き方を想像し、働く上で大切にしたいことについて考えました。「人生の中での働く期間が延びるから健康に気を付ける。」、「ＡＩに負けないように自分の得意なことを生かすことが大切だ。」など、実際に自分が働く時のことを想定した現実的なキャリア形成ができました。

岩津中　萩原　緑

本校の校歌には「稲穂の波」という言葉があります。校区にも多くの田んぼがありますが、意外と稲の事を知らないのが現状です。それをテーマ設定のきっかけとし、三年生では、農協の協力をいただきながら「バケツ稲」を育てています。田んぼの中で起きていることを、間近で観察する試みです。

竜谷小　渡辺修一郎

本校の六年生は、「地域の力になる中部っ子」をテーマに、福祉について学習しています。岡崎市社会福祉協議会から講師をお招きし、高齢者疑似体験を行いました。一緒に暮らしている祖父母や学区に住むお年寄りの方の困り感に気付くことができました。

六中小　天野　愛莉

本校の五年生は、岡崎市社会福祉協議会から講師をお招きし、障がいのある方の講話を聴いたり、高齢者疑似体験をしたりします。障がいのある方や高齢者と「ともに生きる」ことがどういうことかを身をもって考え、福祉について意識するよい機会となることを目的としています。

細川小　浅井　康雄

五年生は、地域の農場の方に田んぼを貸していただき、米作りに挑戦する中で、農家の方の苦労や工夫について学んでいます。米作りに関係する環境・人・食生活などを探りながら、私たちの主食であるおいしいお米を守っていくために、自分たちにできることは何かを考えていきます。

男川小　角谷　明彦